

令和2年8月20日

岸和田市産業活性化推進委員会 会議録（概要版）

日 時 令和2年8月19日（水）15:00～16:30
場 所 岸和田市役所新館 4階 第一委員会室
出席者 （委員）
石田委員長 藤田副委員長 浦山委員 奥委員 音掬委員 谷口委員 中井委員 永谷委員 松下委員 南委員
（事務局）
前田魅力創造部長 上東産業政策課長 岸田労働政策担当主幹 公文企業経営支援担当主幹 泉本港湾振興担当長 田中商工振興担当長 草川担当員 栗本農林水産振興担当主幹 高橋観光振興担当長

協議内容

（委員長） まず、議事1「産業振興新戦略プラン【改定版】の進行管理について」に入ります。昨年度の取組状況等12の基本方針について事務局よりまずは説明し、その内容について委員の皆様からご意見をいただき、議事を進行していきたいと存じます。事務局より説明してください。

（事務局） ≪資料1～3及び岸和田市産業振興新戦略プラン【改定版】の進行管理について、基本方針ごとに平成31年度実績等を説明。≫

（委員長） 事務局から、昨年の評価後どのような取り組みをなされているかについて代表的なものをご説明いただきました。この件につきまして、意見質問等がございましたら、どなたからでも結構ですので、ご発言をお願いします。

（委員） 基本方針2で、よろず支援拠点からKishi-Bizに変更したというところで、Kishi-Bizについて相談件数が増えたことも含めて、どのような質問をされているとか、どういった効果があったとか、そういったKishi-Bizについての情報などを可能な範囲で教えていただきたい。

（事務局） Kishi-Bizの直近の相談の状況でございますが、8月中旬までの数値でございますけれども、相談件数は500件ほどに達しています。相談の件数ごとの割合でみていくと、サービス業や製造業の事業者様からの相談件数が多いのかなというところなんです。事例の方はなかなかまだ精査できていない状況です。

（委員） 私からよろしいでしょうか。実は私2月から月1回こちらの方にご相談させていただいております。だいたい1回につき2時間で、まずは自分のお店の

状況をお話しさせていただいて、それに対して、どういった工夫、事例も含めて、私の店に合うようなアドバイスを頂いています。それを一つ一つ取り組むといったところですか。身近で予算のかからないところからスタートしているというふうな、私の店の内容に合わせたようなレベルでお話ししていただいている状況でございます。

(事務局) ありがとうございます。参考事例としてご自身の体験のお話をさせていただきました。私共の方から別途製造業の事業者様からのご相談ということで、切削油等の製造販売をされている事業者様のご相談に来られたという事例がございます。こちらにつきましては販売のネーミングやターゲットというところをご提案させていただきまして、整理させていただいた中で、専門の新聞、専門誌になりますけれども、取り上げていただくことで、これまでとは違うオーダーが来ているというような話は聞いています。いずれにしても、追加の設備投資等を行うのではなくて、今ある資源をどう活用していくかというところのご提案をさせていただいているという状況でございます。

(委員) ありがとうございます。今お聞きさせて頂いたら、内容はさることながら、こういう支援機関と市で、情報が密に流れているのかなということがお聞きできてよかったと思います。任せっぱなしになっていたり、放置してしまっているのではなく、今事務局が言われたように、いろいろと情報を得ながら、またこれはおそらく将来的には、いろいろと相談が詰まっていったら、そこから施策を立ち上げる、施策のアイデアになると、今お聞きしてうまくいくのではないかと思います。

(委員長) 今の件、それでよろしいでしょうか。それでは、他にご意見ございましたらお願いいたします。

(委員) 今の状況なのですけれども、コロナの加減で全産業の中はかなり疲弊しているところが出てきている。年末にかけてかなり倒産件数が見込まれるような状況になっております。小売業もそうですし飲食業もそうですし、それから製造業に至りましては、車の販売台数が減ってきていますので、それに伴って個々の製造業がかなり疲弊しているということになっております。全体の産業振興について、これはこれでいいと思うのですが、ここ1年くらいの間はこの中でも数件に絞って、それに向かって、集約した形で行動する方が良いかと。こういった個別で細かいところまでやっていく余力はないと。売上げが減っている産業はかなりありますので、その産業についてどのようにテコ入れをしていくか、この中でもいいのですが、中でも10件なら10件に絞ってどういう具合に全体をやるかというようなことをやりませんと。こんな悠長にできるような話であるのか、ということは多分大多数の方が考え

ておられる。その辺を含めてどういう具合に絞っていくか、考えていただきたい。今、刹那的にいろいろ補助金、給付金を交付していますけれども、これはもう一瞬だけなんです。うまく経済を回していくためには、もう少し深掘りしたところを、何本か集中してやっていく方が効果的。で、平時になったら、これが収まったら、基本方針に基づいて個別にやっていくのはいいと思うのですよ。苔のテラリウムが過去最高にとはどれぐらい売れたか。20個とか30個とかか。

(事務局) 多分それぐらいです。

(委員) それが今の状態の中でいけるのか。認識が甘すぎる。第2弾第3弾と政府からの交付金でやっているけれども、どの程度効果を見込んでいるのか。あるいは金があるのなら抜本的に効果を出すことを考えないといけない。いろいろ細かいところは、議論がたくさんあると思いますが、根本的にはそういう考えです。

(委員長) おっしゃる通りで、確かにこういう、コロナで社会全体が疲弊していますので、基本施策がありますけれども集約して、特に重点的にやっていくということは大事な、というより必要なことだと思いますけれども、その辺も含めて事務局からお願いいたします。

(事務局) ご意見ありがとうございます。私も全く同感でございます。中長期的に対策をとっていかなければならない点と、短期的に今できることについては、商工会議所さんにもいろいろご協力いただきながら、まずは先般の、小さな部分ですけれども、食事券というような、飲食店を応援することをさせていただいたり、商店街と一緒に商品券の発行をさせていただいたりというようなことをやっております。次に今度の、また後程ご紹介いたしますけれども、消費喚起をしながら市内の産業を活性化していこう、お金を循環させていこうということを直近では実施していきます。さらにその先、中期的な先については、おっしゃるとおり、まずはいろいろ傷んでいる業種等々、全国的に見ても一定把握はできていますけれども、例えば本市で本当にどういう業種がどういう分野でどこまで傷んでいるのか、あるいはその逆の部分もあるかと思えます。その実態をまずしっかりと把握するというところで、実態調査を現在進めています。それもまた見ながら、次の対策を立てていきます。さらには先ほどご質問いただきました、Kishi-Biz ですね、これはまさしく産業を下支えする、振興するために今年の2月から設置してございますので、既に半年近くたっておりますが、この機能を今こそ役立てるときですし、この機能を今こそ補強して、特にコロナに対応した、耐久出来るような体制にする補強を今回する予定です。コロナは必ずしもピンチばかりではなくて、

業種や業務、業態によっては一定チャンスも逆に生まれてくるかと思えます。社会の形態も生活様式もガラッと変わるわけですから、そこに新たなビジネスチャンスが出てくるという視点からですね、Kishi-Biz のアドバイス、支援を補強しながら、岸和田の産業全体を底支えしていくというようなことを、今の時点では考えております。もう少し具体的な話は、これからまた皆様と一緒に、ご意見を頂きながら、しっかりと中長期的な面も見ながら考えていきたいと思っております。

(委 員) Kishi-Biz は市長の肝いりだからそれはそれでいい。けれども Kishi-Biz というのは個別企業をどういう具合にしていくかという話であって、産業全体をどうするかという方向性をやる話ではない。だからその辺は、それで全部ができましたという話にはならない。それをよく切り分けて、産業全体としてどういう施策をするのか。これから実態調査をするとのことで、私らの企業でもそうだけれども、政府が何十回ってアンケートを送ってくる。そのアンケートのために1人担当者を置かないといけなくらいひどい。だから実態調査をやるのであれば、もう少しいろんな方法を考えて、どういう手順で行うのか。実態調査くらいならいくらでも協力はするけれども。簡単に「ピンチはチャンス」、これは言葉としては簡単だけれども、そんなに簡単なものじゃない。巢籠りの商品あるいはネット商品、そういうところは確かに伸びているけれども、それ以外のところは伸びていない。そういうことをよく考えられないと。口先で、言葉の上でやるのは簡単だけれども、よく見て。商店街もそうだけれども誰が歩いている？商店街をどうする？具体的にどうする。相談で何とでもできるのであれば、今でも何とでもなっている。できないからどうするか。できないから骨太にどういう方針を持ってくるのか、それをやるのが行政の仕事でしょう。

(委員長) 永谷委員、どうぞ。

(委 員) おっしゃる通り商店街は疲弊しきっているというのは事実です。この中でコロナの状態が1年続くとなると、どれだけのお店が耐えうるのか。コロナで命が大変かもしれませんけれども、別の意味で命がなくなるという事態が現実的に起こっているということを、我々は常々認識した中で、不安としながら今この毎日を戦っている。恥ずかしい話ですけども、うちも5月は8割減でした。やはりそうなったら先行きが怖くて、商売をどうしたらいいのか、このまま続けてもいいのか、私も家族を養う生活をしていかないといけない。やはり商店街もコロナに加えてこの猛暑で、確かに人も歩いていません。しかしこの中で商いをしている私たちにとっては、これでどういう風に生活を確保していくか、ということは必須条件となっている。死活問題です。きれいごととは別問題。そういう認識で私たちは毎日ずっと過ごしている状況と

いうことだけ、ご説明させていただきます。

(委員長) ありがとうございます。せつかくの機会ですので、どうぞ。

(委員) 一次産業側からも。コロナという今まで想定していなかった状況下に置かれているというのは、農業についてもです。この地の特産品ということで「水なす、水なす」ともてはやされていますが、水なすの単価も前年対比で7割を切っています。料亭とか、業務筋が動いていないこと、それと合わせて、コストそのものは変わっていませんから、当然収入については前年対比でいうと、所得水準では5割程度落ちてくるのは間違いないのです。それと、農業も漁業もそうなんですけれども、コロナだけではなくて、非常に長雨が続きましたし、長雨の間には4日くらい割と強い風が吹きました。一時期台風並みの風が吹きましたので、ちょうど桃であったりとかも、木そのものが折れたり、そういう意味では非常に大きな被害がある。また、梅雨が明ければこの猛暑の状況ですから、農業そのものについては環境に大きく左右されていますので、コロナに加えて自然というのは常につきものですし。私も、この状況を受けて、今の計画を変更していく中で、「骨太」という表現をされた、まさにその通りだと思います。これから5年、10年先もそれぞれの産業でそれぞれ携わる者が努力していけば、きちんと経済が循環して継続していけるということ、やはり今手を加えておかないと。それは一定行政が先行投資と思う部分であっても施策としてやってもらわないと、多分地域の経済そのものは持たない気がします。そういう意味では先ほど言われた、今の計画をもう少し選択、集中を含めて、骨太な計画をはっきりと見えるような形でやっていただけるとありがたいなと思います。

(委員) 漁業も農業と一緒に、雨と風と日照りですね。日照りが続くと、やはり景気は、このコロナとともに指標に出てきます。この時期になってきたら、スズキの値段が上がってくるのだけれども、高級魚であるがゆえに、料亭等が休むような状態になっていますので、高い魚が全然売れません。ハモ、スズキ、夏の魚が大阪全体でも、日本全体でも、本当に料亭に行くようなものが全然売れないような状態になっています。しかし、魚は獲れています。この春から鱈がたくさん揚がっています。揚がりましたけれども、このコロナの影響でタダ同然、大漁貧乏という形で、要するに反対に海に出る方が、燃料代や氷代とか、経費がかかって全然前に進まない状態。その後、貝毒が今年は早かったのも、なくなったのも、トリ貝は獲れています。トリ貝等は獲れていますけれども、泉佐野ではなんとかトリ貝で持っているような形になっていますけれども、その他のものは全然売れないような状態になっています。それと、今年はタコも多いです。タコも多いけれども、市場には出ません。市場に出すと値段が崩れるので、今は大阪府漁連の冷凍庫も満杯になっており

ます。一応7、8千万のタコは確保していますけれども、これからどうして売っていくのかどうか、ここ数年タコがなかったので、今年は豊漁で、こういった状況で今年は冷凍で確保しとかなないと、今度はいつなくなるかわからないので。この後の状況によっては、頭打ちになると思いますので。なんとか市場に魚を出していただけるような形をとっていただきたいなと思います。

(委員長) ありがとうございます。他にこの事項に関しまして意見ございませんでしょうか。

(事務局) ありがとうございました。各分野の委員の皆様から具体的なお意見を頂きました。私も骨太の方針というのは大事だとは思っています。そういう意味では、この後になりますが、本来「産業振興ビジョン」とそれに基づく「産業振興プラン」に則った施策を実施して、その結果が今日見いただいている、「施策確認シート」です。この振興ビジョンについては今回見直しをする予定で、今年度はできないですが来年度に改定します。これは岸和田市の産業の、少なくとも10年間の産業の分野における総合計画になります。今頂いているご意見を、しっかりと踏まえた目標を設定した構想にしていくべきだと思います。こちらは市だけが作って市だけがやる、という計画ではありませんので、実施については市民の皆様、事業者の皆様と達成していかないといけない事業ですので、この策定の段階から皆さんのご意見を頂きながら一緒に作って行って、その後構想に向かって、とにかく今できること、何ができるのかということ、また立案してやっていかないといけないと思っております。合わせて、直近、今すぐ、困っていること、対策できること、これについても、ご意見を頂きながら、来年度また我々も予算を確保して事業を実施していくわけですから、一緒に考えながら実施していきたいと思っております。

(委員長) ありがとうございます。この話は多分次のワーキングでも同じように出てくると思っています。そこでも議論されると思いますので、そのときにきちんと話ができますようによろしく願いいたします。では、今の件についてはよろしいでしょうか。それではこれ以外のところで、ご意見、ご質問ありましたらお願いします。

(委員) 議論を絞るという話はどうされますか。

(委員長) 今日ですか？

(委員) 今日でなくてもいいのでやっていただきたい。今実際に農業も漁業も商業も工業も含めたところも、どうなるのかということをやはりある程度方向性をもって出してもらわないと。10年先の話を今してもしょうがない。ここ1年

の間の方向性がある程度絞っていかないと。全部の議論をひっくり返せなんてそんなことは言わないから。今までであった議論の中でも、緊急にやるものもあるけれど、中長期のものもある程度絞らないと。この議論を前に進めてもしょうがない。

(委員長) おっしゃる通りです。さっきワーキングのことを言ったのは、ワーキングで議論を煮詰めてもらってですね、それぞれ絞ってもらったらいんじゃないかと思っているのですけれども。調整がいろいろありますが、いかがでしょうか。

(事務局) おっしゃる通りその議論ももちろん大切で、これからまたやるべきですし、整理するべきだと思います。確認のため申し上げますと、今回は今あるビジョン、プランに基づく内容で昨年度実施した施策について、結果のご報告をこのシートを使ってさせていただいて、その内容について点検、評価いただくということが次のワーキングの目的となっております。なので、これは進行管理の部分になりますので、結果の点検については一定今まで通りさせていただきたいと思っています。合わせて直近の施策については、ワーキングで議論するのか、何か提案をさせていただきながら揉んでいただくのか、ということは、方法はまた別途考えるべきだと思いますので、そこもある意味分けて、させていただきたいと思っています。

(委員長) もしそうだとすると、ご提案いただかないといけませんので、どういう形ということになりますけれども、事前に関係の深い方々と話し合ってください必要があります。こういう会議でなくても、個別に皆様どういう風にお考えなのか、何を望んでおられるのかということ、それをベースにワーキングなどで別途、本来の議題と合わせて、ご説明いただく、ご提案いただくということでやっていただくなら、それはそれで結構かと思うのですけれども、いかがですか、他の委員の方々は。

(委員) おさらいさせてもらってよろしいですか。今おっしゃったのは、結局これは従来通りということと、それとは別に、コロナ対応のような対策に対しては同時に審議するという形でよろしいですか。

(事務局) 今その点は委員長の方からもご提案いただきましたので、今のところワーキングはこの評価をするだけの予定でございましたけれども、例えばワーキングで、点検、評価と合わせて別途、もう一つのミッションとして近々にやるべきことやれるべきことは何かというような意見出し、議論出しということも併せてもしさせていただけるということであれば、それはありがたいと思います。

(委員) そうしないと、多分10年後のことを議論したって、この1、2年でどんな状況になっているか。先行きがわからないから10年後のビジョンと言ったって。今、足元が地についていないようなもの。とりあえず着地させたいうで、落ち着いたうで、10年後を見据えたら、また皆さん同じメンバーと一緒にできるかもしれない。だから、今おっしゃったように同時進行で考えていければと思います。

(事務局) 補足させていただきます。施策の評価は評価として、非常に重要な行為でございますので、こちらはこちらで例年通りやっていただいて、もう一方で並行的に、短期的な取り組み、中長期的な取り組みを分けながら考えていきたいと思っております。短期的な取り組みであれば、事業者の皆様、市民の皆様、お金をちゃんと循環するように、例えば資料5のキャッシュレスでありますとか、そういったことを応援していただければ、そういったコメントをワーキングでいただければと思います。

(委員) 整理されている内容については、より具体的ですし、そうしていただきたいと思っております。それと、別途議論することで、短期的に予算をあまりかけずに効果をきちんと出そうと思ったら、まず現場の認識の精度をより高めることが必要です。ここにおられる方はだいたい現場の方ばかりなので、一番岸和田市の産業を把握している方ばかりなので、そこから今の実情を行政として把握したうで、政策を作っていただいて、実際に、農業している人、漁業している人、商業している人、工業している人が、市から出た政策が確実に消化できることが大事なので。トップダウンで来るものはあまり結果が出ませんから、それは理解していただかないと非常に困るなと思っております。短期間で、一気に、省力的に結果を出そうと思ったら、その方法が非常に効率的ですから、その理解はしてもらったうで、別途の議論はやはりやってほしいなと思っております。

(委員長) ありがとうございます。

(委員) 会議そのものが壊れてしまうのでこれ以上は言いませんが、市の中で考えるのではなく、現場に聞きに行ったらいい。農協でも漁協でもそれこそ商店街でも、もう少しちゃんと聞いていけば、こんなところでこんな話は出てこない。やっぱり、わかっていない。どれだけ切迫しているか。この話はこれ以上しないけれども。今日の議事についてはある程度やってしまわないといけないからやってしまいますけど。特に、農業も漁業も、この話は農林水産課でも聞いていないのでは。

(事務局) 農業関係、漁業関係の方からこのあたりの話は聞いています。

(委員) 対策は？

(事務局) 対策はまだ練れていません。

(委員長) よろしいですか？こう言った言い方をしたら申し訳ないですけども、さっきからも出ていますけれども、今やっている評価は評価として、そして次のワーキングはワーキングとして、これは粛々と進めていかないといけないので、委員の皆様からご指摘いただいた件ですけども、これはもう今の話を聞いていますと、各産業の現場の方と、市の方と直接話をして、実態と意見を吸い上げて、それで政策をまとめていただく、そのようにやった方がスムーズに行くのではないかと、話が早いのではないかと思います、いかがでしょうか。

(委員) これはこれでね、これ以上のことをしていたら、時間がいくらあっても足りないので、これをやっていただいたらいいですけども。そういうことです。

(委員長) 事務局の方々もその方向でご理解いただけますか。

(事務局) はい。

(委員長) ご意見を、「現場」という言葉が出てきましたけれども、各産業に与されている方々からヒアリングして、実際の現状を認識していただいて、それで施策といたしますか、対応していただく。そういう方向で進めていただければと思います。委員の方々はよろしいでしょうか。

(委員) はい。

(事務局) 資料5にある経済対策の方は、スピード感を重視したというところがあったので、きめ細かさといいますか、なかなか事業者皆様の意見を拾いきれなかった部分というのはあるかと思います。今後は皆様の意見を聞いたうえで、メリハリの効いた、より困っている部分にフィットした対策をしていきたいと思えます。

(委員長) ありがとうございます。それではこの件はこれでよろしいですか。では、他に議事1に関して何か意見はございませんでしょうか。

《意見なし》

(委員長) それでは、議事1の進行管理については原案通り承認ということで、ご確認をよろしく願いいたします。続きまして議事2「岸和田市産業振興新戦略プラン【改定版】と岸和田市産業振興ビジョンの改定について」に入ります。事務局より説明をお願いします。

(事務局) ≪資料4について説明。≫

(委員長) ありがとうございます。それではご質問、ご意見等ありましたらお願いします。

≪意見なし≫

(委員長) 岸和田市産業振興ビジョンに関して、中身のコピーはいただけますか。

(事務局) おっしゃっていただければコピーをお渡しすることができます。またおっしゃってください。

(委員長) 委員の皆様も、改定の際に参考になさると思いますので、時間があるときによろしくをお願いします。今の件で、何かご意見等ございますでしょうか。

(委員) 温暖化の関係の、市としての目標がありますよね。それと今SDGsもあるので、当然そのこともここには加味されるということで理解していてもよろしいでしょうか。

(事務局) はい。

(委員長) 今おっしゃっていただいたことも重要な問題で、社会的に注目されていることです。他に意見はありませんか。

(副委員長) ビジョンそれ自体が20年以上たったということなのですが、まずビジョンの見直しをするにあたって、評価というのはこれまでどういった形で行ってきたのでしょうか。戦略プランの進行評価というものはこの会議のように毎年してきたと思うのですが、その上位計画のビジョンについて、見直しをするにあたって、まずもって達成度合いのような評価はどういった感じになっているのでしょうか。

(事務局) ビジョン自身、おっしゃるようにもう20年経ってしまっています。評価、点検、もちろんPDCAという部分で、作るだけではなく、点検、評価というものが非常に大事になってきます。正直なところ、できていません。もともとそ

れに基づいて作ったプランについても点検、評価ができていませんでした。平成24年度からようやく、今回のようなシートを出させていただきながら、プランの方は点検、評価を、こちらの委員会でもご意見を頂きながら、やっていくことになってきたという認識です。次の、上位計画であるビジョンの改定にあたっては一定の評価は必要だと思います。ただ、時間も限られていますので、これまでのプランの評価を総括しながら、ビジョンの評価と読み替えつつ進めたいと思います。より大事なことは次の改定したビジョンをどういう風に進行管理していくのか、10年先の遠い未来を追うような計画ではございますけれども、一方で長期的なビジョンをもって、意識をもって、目標をもっていくべき大事な計画でもあると思っておりますので、その進行管理をどうするかということも次のビジョンの中にはしっかり書き込まないといけない。そのことについてもまたご意見を頂きながら、今度のビジョンについてはPDCAのサイクルをどう回していくのかということもしっかり検討したうえで書き込んでいきたいと考えております。

(委員長) 他にご意見はございませんか。

《意見なし》

(委員長) ご意見なければ、この場に出たご意見を踏まえたうえで、本件を原案どおり承認することにご異議ございませんか。

(委員) 《異議なし》

(委員長) ご異議がございませんので議事2「岸和田市産業振興新戦略プラン【改定版】と岸和田市産業振興ビジョンについて」は原案どおり承認されました。それでは議事3は「その他」となっておりますので、ご意見・ご質問があればお願いします。

(事務局) 《資料5について説明。》

(委員長) それでは、ご意見がありましたらお願いします。

(委員) 市独自ポイント還元について、具体的にはどうするのか。

(事務局) 現在、キャッシュレス決済事業者の募集をしております、その後契約を進めていく予定をしております。「広報きしわだ」の9月号にはその事業者の具体名が挙げられて、その事業者のキャッシュレス決済を利用すれば、ポイントが加算されるという形になる予定です。

- (委 員) フードデリバリーの促進について、これで消費拡大を図るということか。
- (事務局) コロナ禍で、飲食店に出向いて食事をすることが困難な状況が続いておりますので、飲食店への支援も兼ねています。飲食店が今までの業態のままではなかなか店舗にお客が来ない。でも、従業員が少なく出前なんてできないというときに、わざわざ配達用に従業員を雇うのではなく、デリバリー業者と契約をしていただくことで、デリバリーやテイクアウトなど新たな事業を展開できるという、事業者様への機会の提供をしたいという目的があります。
- (委 員) 概要はわかりました。農協でもレストランをやらしてもらっていて、バイキングができないので、当然テイクアウトであるとか、ワンプレートのものにするのですが、基本的に全部単価を落としています。単価を落としたために原価率が上がっています。そうしたときに、更に契約に係る負担というのがかかりますから。その辺は一定理解してほしいと思います。今までと同じ商売でも、テイクアウトとなると薄利になっているので、薄利にさらにデリバリー事業者への手数料を負担することになるということを理解してほしいです。
- (委 員) 商売わかっていない。全然わかっていないからこういう発想になる。
- (事務局) 確かに、手数料は相当額かかります。しかし、こちらは今までの商品を今までの金額でお客様に届けるのではなく、デリバリー専用のメニューを考えていただいたり、それこそ自宅で作ったものを販売したい、金銭的に店舗を構えたり従業員を雇ったりはできないけれども、デリバリー専門で商売を始めたいというニーズに応えることもでき、創業支援につながるということも狙っております。
- (委 員) 人口比が高いところでは成立するかもしれない。岸和田で成立するのか。
- (委 員) 社会実験みたいなもの。大阪市内とは所得も全然違う。
- (委 員) 経済格差がある。貯蓄額も動いているお金の額も全然違う。
- (事務局) 短期的に見ると、皆様がおっしゃるように手数料が高いという部分がございます。ただ、中長期的に、飲食店のみに対する支援なのか、というところがあります。例えば諸外国では野菜などの生鮮品を各家庭に販売しています。どんどんデリバリーする製品が拡大しているわけですから。フードデリバリーというものが世界的に市場でも高まっていて、日本でも右肩上がりです

し、短期的には確かにおっしゃる通りの懸念もありますが、もう少し未来を見据えた取り組みであると捉えていただければと思います。

(委員長) 他に意見がございましたらどうぞ、お願いします。ご発言いただいていない委員の方、何かご意見を頂けたらと思いますが。よろしいですか。

(委員) ≪意見なし≫

(委員長) それでは、議事3「その他」に関して、活性化案をご提示いただきましたけれども、ご確認いただけますでしょうか。

(委員) ≪異議なし≫

(委員長) それでは議事3を終了いたします。ご意見ありがとうございました。続きまして、事務局から連絡事項をお願いします。

(事務局) 皆様、本日はありがとうございました。この後、ワーキング会議を設置しまして、評価、点検と、新たな直近の取り組むべき内容、必要な施策の内容等についての意見を頂く場をまた設置したいと思います。各団体様にメンバーをご推薦いただきたいと思っておりますので、本日机上去ご依頼文と推薦書と日程調整用紙を置かせていただいておりますので、事務局の方までご提出いただきますようお願いいたします。また、次回、第2回岸和田市産業活性化推進委員会は、すでにご案内のとおり、12月2日水曜日の午後3時からを予定しております。ワーキング会議で出たご意見を参考に委員会としてのコメント等についてご意見を賜りたいと思います。場所が未定でございますので、改めて案内文を差し上げる予定です。開催日が近づきましたら、会議資料等をお送りいたしますのでよろしくお願いいたします。事務局からは以上です。

(委員長) 本日の日程は終了いたしました。委員の皆さまには議事の進行にご協力をいただきありがとうございました。以上で、令和2年度第1回岸和田市産業活性化推進委員会を終了いたします。ありがとうございました。